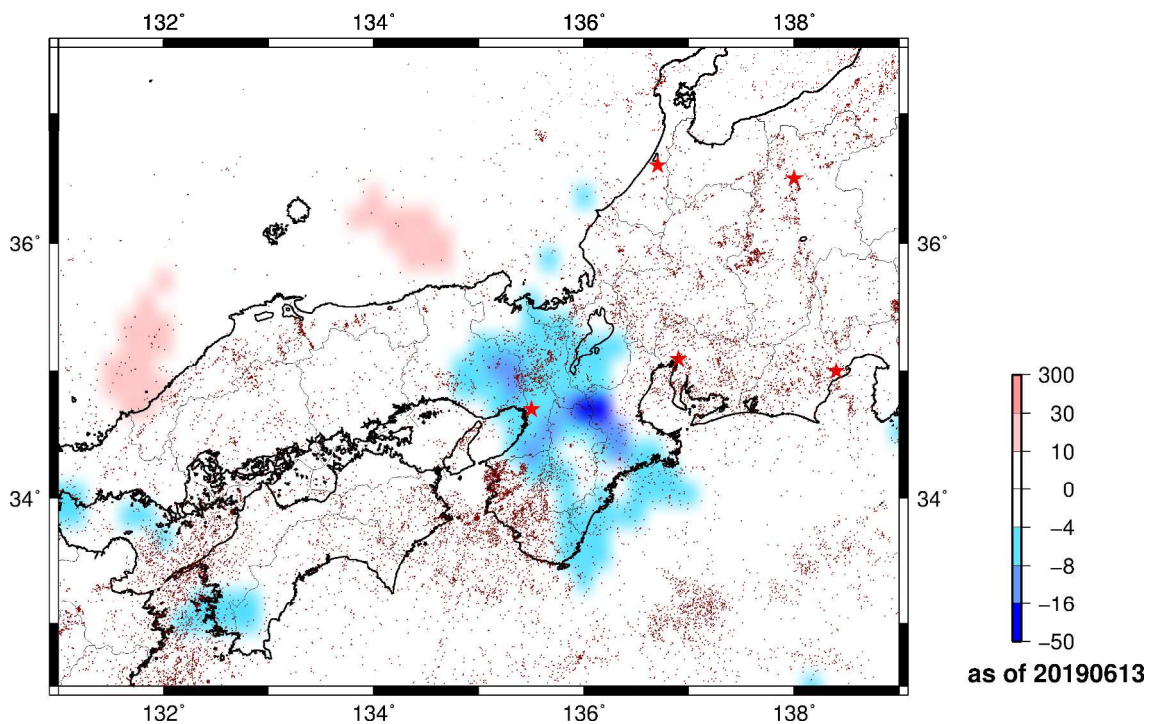




中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

5月13日のニュースレターに引き続き、中部地方以西の地下天気図です。ほぼ1年前の昨年6月18日に大阪北部地震が発生し、その前から近畿地方を中心に地震活動静穏化が進行していた事をお伝えしていました。ただ大阪北部地震はマグニチュードが6.1と静穏化の面積に対して小さく、また静穏化が最も進行していた段階で発生しました。確かにこの地震により、近畿地方の静穏化は一旦解消の方向に向いました。ただ地震から1年近くが経過し、現在近畿地方では再び静穏化が進行しだしたことを前回お伝えしました。

下の地下天気図は6月13日時点のMタイプ地下天気図です。近畿地方の異常は、5月10日時点とほとんど変化していないことがわかりました。



中部・近畿の5都市におけるRTM変化曲線（地下天気図の時間変化）

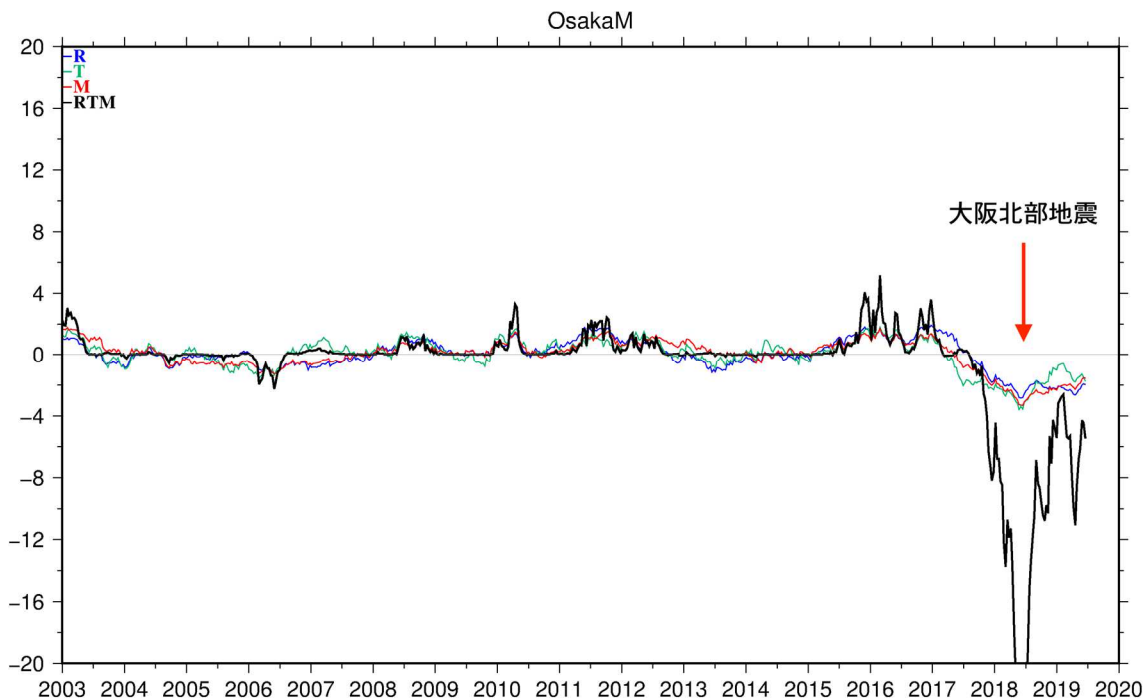
今週は上の地図で、5箇所の都市（大阪、名古屋、金沢、長野、静岡 ★の地点）におけるRTM曲線が2003年以降、どのように変化してきたかをお示ししたいと思います。

地下天気図にはいつもお示ししている地図の上に青い領域（静穏化領域）や赤い領域（活発化領域）が示されているものと、時々お示ししています、ある地点（たとえば東京とか大阪）における特定の場所で地震活動がどのように変化してきたかの時間変化（時系列）を示したものがあります。今回は中部・近畿地方の5都市を選んで、2003年以降、どのような変動となっていたかを確認してみたいと思います。



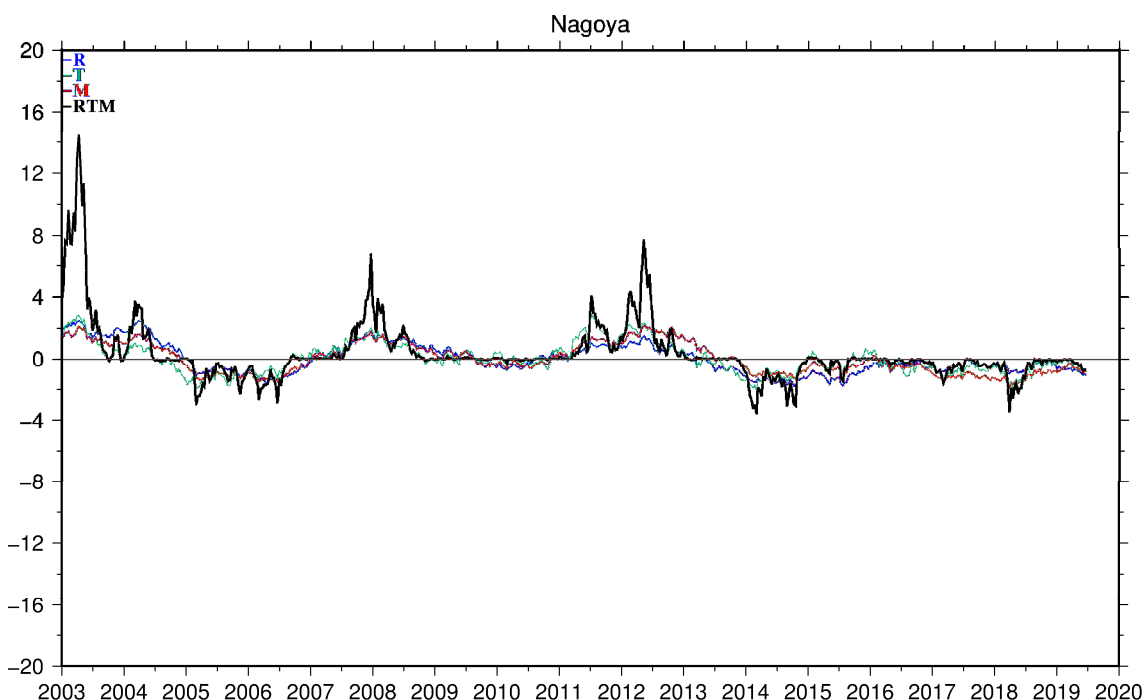
大阪

ご覧のように過去17年間では初めての大きな静穏化が2017年の終わりごろから見られました。実はほぼ同じ時期に紀伊水道でマグニチュード7程度の「ゆっくり地震」と呼ばれる地震が発生していた事もわかっています。現在、再び静穏化が進行しつつある状況で、危機が去ったとは言えない状況です。



名古屋

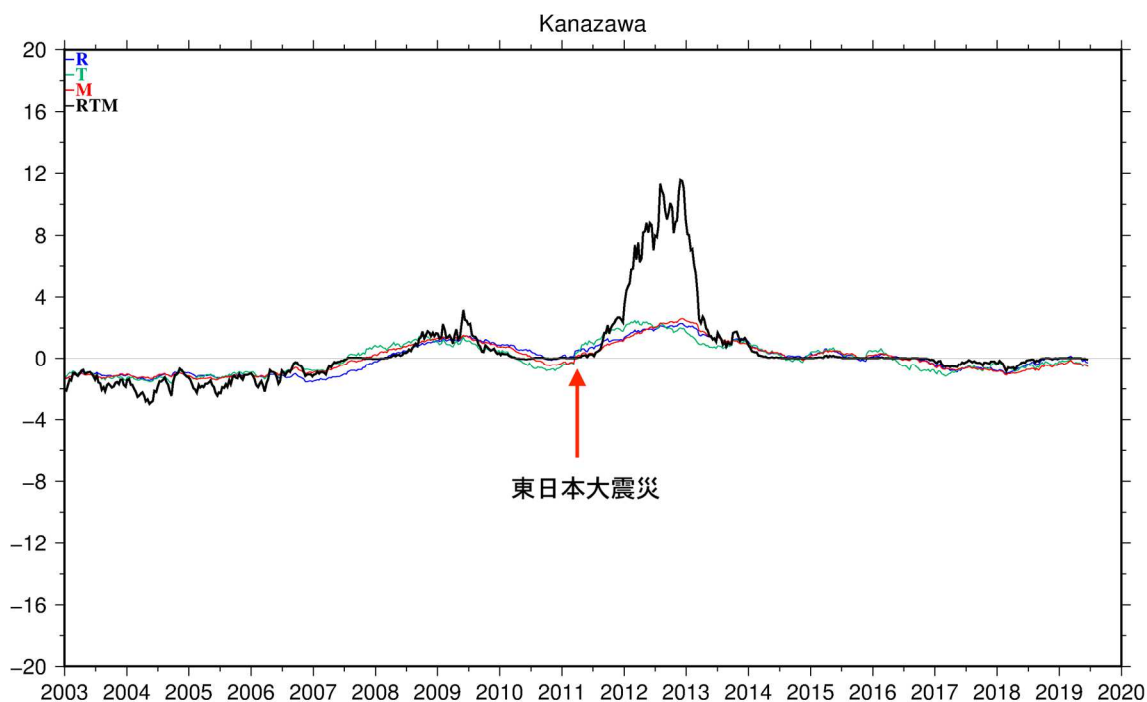
この期間では何回か短期的な地震活動活性化はありましたが、地下天気図の観点からは名古屋には異常は観測されていません。





金沢

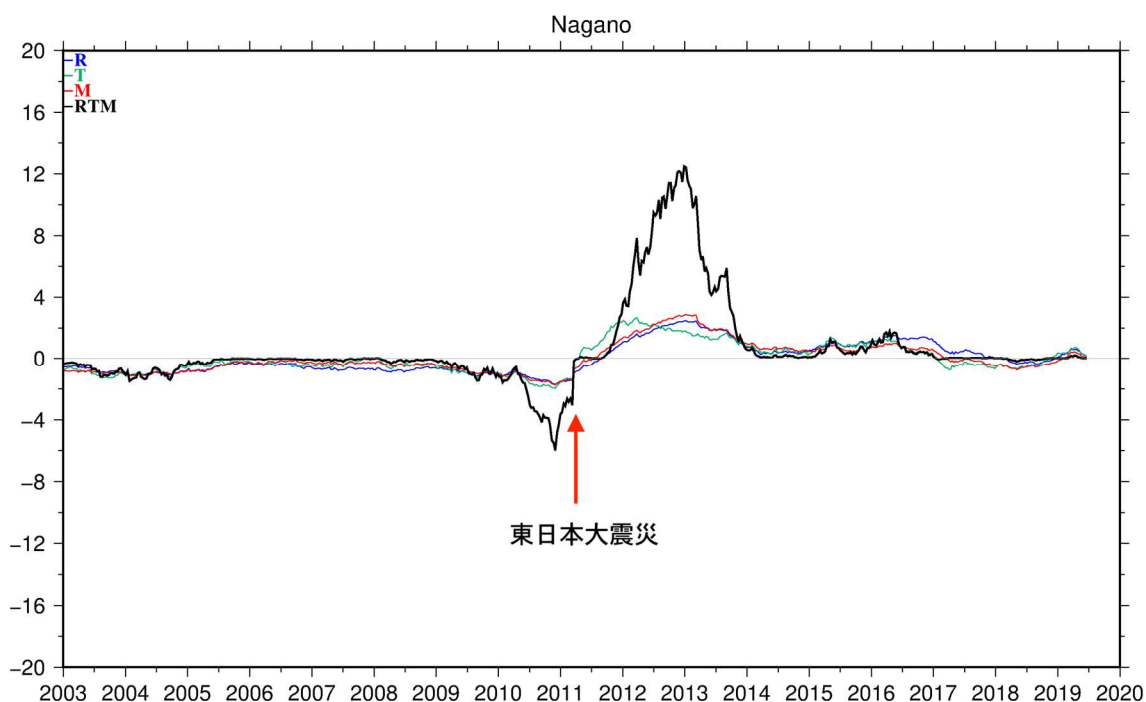
東北地方に比較的近いこの地域では、東日本大震災の後に一時的に地震活動が活発化しましたが、現時点では地下天気図には異常が出ていません。



長野

長野では少し地震活動静穏化が進んでいる段階で東日本大震災が発生しました。また長野県北部では、東日本大震災の翌日に後に、“栄村大震災”とも呼ばれた内陸地震が発生しました。この地震では「忘れられた被災地」という事が言われました。

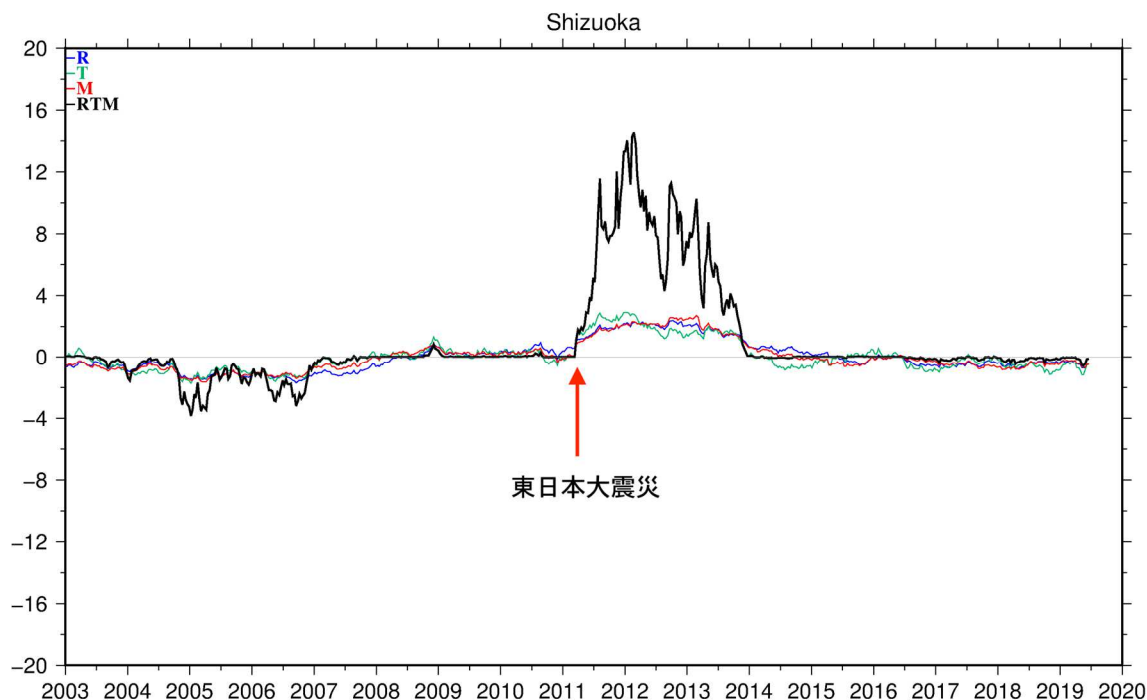
現時点では長野の地下天気図には異常はみられません。





静岡

静岡でも東日本大震災の4日後の3月15日に静岡県東部でマグニチュード6.4の地震が発生しました。それも、やはり東日本大震災をきっかけに地震活動度が高まっていた事がわかります。ただ、現時点では静岡の地下天気図には異常はみられません。



このような各都市における地下天気図の時間変化も今後 DuMA では追跡していきたいと思えます。